留学体験（現地）レポート

国際学部　国際文化学科２年
21015116　牧野笑花

私は、８月 29 日から１月７日までの 132 日間北京に留学をした。留学に行くまで、海外には一度も行ったことがなかった。また、人見知りであることや中国語のリスニング・スピーキングの苦手意識からも留学は不安な点がいっぱいあった。しかし、日々メディアなどで報道される中国や先生方から聞く中国など、中国にも様々な面があると思い、本当の中国とはどのようなところなのかを自分自身で感じたいと思い、留学に参加した。

北京に行ってみて、日本とは習慣や環境、価値観も違うため困ったことや驚いたこともあった。例えば、トイレや交通、接客などだ。基本的に、北京にあったトイレはトイレットペーパーが設置されてないことが多く、衛生環境もあまりよくなかった。また、交通においても、日本と赤信号時のルールが異なっていることや、当たりそうなギリギリのところに車を停めることもあり、通り過ぎていくこともあった。接客においても、客がいても携帯を使うなどの自由さが見られ、驚いた。その一方で、日本の生活環境の便利さ、安全さ、丁寧さはすごいのだなと思い、日本での生活でのありがたみも感じた。しかし、接客において、その自由さが心地よく感じることもあった。このように、中国での生活は悪い面だけでなく、楽しい面もたくさんあった。

留学に行ったばかりのころは、中国語をほとんど聞き取ることが気なく、授業を受けているときも宿題が何かわからない時もあった。しかし、先生は優しいので何度も丁寧におしえてくださった。クラスメイトやルームメイト、中国の学生とも仲良くなれるか、中国語で話せるかとても不安だったが、みんなとても親切で、私が何を伝えたいのか理解してくれる姿勢を持ち、伝えたいことを理解してくれた。留学し、1 か月ほど経つと中国語を聞くのにも少し慣れてきて、先生の言うこともほとんど理解できるようになり、また、クラスメイトやルームメイト、中国の学生とも話せるようになり、会話が続くようになった。このように、留学中に多くのいい人に出会った。彼らと会話をして、感じることがあった。多くの外国人が、日本の文化に興味を持ってくれていた。韓国や中国の生徒は日本にはあまりいい印象はないのかと思っていたが、日本に好感を持つ人が多くいた。やはり、このようなことは実際に話してみないとわからないと思った。また、彼らを見ていて、考え方や伝え方は国民性によって大きく異なるということも知った。

中国での生活は、大変なこともちろん多かった。しかし、それ以上に楽しいことが多かったように感じる。中国語を学ぶだけでなく、様々な文化を学ぶことができた。今後も、中国語を学んでいくとともに、様々な文化を学び続け、理解を深めていきたい。